

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人 愛和会		
事業所名	ハナレイ倶楽部グループホーム		
所在地	佐世保市城山町3-21		
自己評価作成日	H29年8月1日	評価結果確定日	平成29年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamapp1/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JN0=4270202387&SVC=0001096&BJN=00&OC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	平成29年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者は転倒予防の為、エアロバイク運動を毎日行なっています。また、午前のレクリエーションではスタッフと一緒に体操をしたり、午後からはスタッフのギター演奏に合わせて唄ったり、しりとりやなぞなぞをして楽しんでおられます。毎月1回は外出レクリエーションを計画し、気分転換を図っています。入居者の家族には、いつでも面会が出来るよう声掛けをし、要望等を聞き入れるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回の外部評価を受審するにあたり、全職員がそれぞれ自己評価をして意見を集約した評価をまとめて取組まれたことは法人としての一体感の表れである。以下に特徴的な取組としていくつか例を列挙してみる。まず地域との交流に際して、グループホームに隣接する中学校の卒業式の際、入居者から「祝卒業」の看板作りの提案があった。中学校に面しているグループホームの窓に看板を貼って地域の中学生をお祝いをするあたいたかい取組があった。次に経営母体の強みを活かした取組として入居者が運動できる環境にある。特に下肢筋力の低下防止のためマシーンも導入されている。更に併設の施設からリハビリ職の職員が定期的に訪問して訓練をすることができる。更に介護と医療の連携の点で、夜間も併設の施設看護師が常駐しているため、急変時であっても慌てることなく対応できる環境にある。このような仕組みがあると入居者やその家族は安心して生活できるし、入居者を支援するスタッフも同様に安心して入居者支援ができています。最後に各ユニットにおいて様々なところで定期的に外出している。外出先で季節感を味わうことができたり、食べたいものをお店に出向いて飲食する等、漠然と外出しているのではなく入居者の希望に沿ったり、思い出の場所に出向く等意図的な外出企画が多くみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り後、理念を口に出し、共有し、実践につなげている。	ハナレイ倶楽部の理念として3つの文言でわかりやすく提示してあるが、現在特に「私たちは、安全で安心できる熟練した介護を提供します」という文言に注力している。まずは安全があつての生活であり、支援の第1歩という解釈であつた。また、理念に掲げている文言に「豊かな生活」や「楽しい生活」があるが、この実践として様々な余暇活動を充実させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺に散歩に出た際、挨拶をするよう自分から声掛けするようにしている。	現住所にて法人としての歴史も深いため、周囲の住民との関わりを多く持つことができています。自治会への加入は当然のこと、グループホームの外出活動を通じて地域の方と交流を図ったり、近隣の中学生の職場体験や、高校生の実習を通じて地域の中の役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での地域の方へ報告、9月に中学生やインターンシップの受け入れが決まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で他者の考えを聴き、サービスの向上に努めている。	参加者の中で特に地域の方からの意見が多く聞かれるということであつた。内容は入居者の外出レクリエーションの行先に、家電屋を提案してくれる等、通常介護事業者が考え及ばないようなアイデアをくれたりすることであつた。その他地域の「イキイキサロン」にスタッフが参加したり、民生委員さんが地域の高齢者の情報を提供してくれる等、グループホームと地域との情報の懸け橋となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者が認定調査に来られた時に、施設でのケアやサービスで取り組んでいることを説明している。	市との関わりとして、定期的に開催している運営推進会議の場が筆頭にあがる様子であった。これ以外にも入居者の介護認定調査の際に、家族が立ち会えない場合等は職員が代わりに対応したり、市が主催する介護技術の研修に参加している。前述のように行政との関わりは多岐に渡り、これからも様々な連携を図っていく方針であった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で勉強会を設け、身体拘束についての知識を勉強する時間を設けている。	身体拘束排除に向けた取り組みの1つの例として、容易にエレベーターの使用制限や、玄関に鍵をかけたりしないで、どうやったら入居者の安全が確保できるか考える習慣をつけている。職員はエレベーター付近に人が近づいたら音が出るような工夫や、業務の途中であっても、常に入居者を見守ることのできるポジショニングをとる等、正しい理解のもと身体拘束のない支援を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の防止」について勉強会を設け、虐待の種類について学習し、決して虐待がないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については、学ぶ機会はあったが、再度それについての確認が必要だと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分に説明を行い理解・納得を図っている	契約時、施設長や管理者が入居者や御家族の不安や疑問点を尋ね、十分に説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価をすることで、よりよい施設運営ができるのではと思う。	特徴的な取組としてスタッフにアンケートの項目を検討してもらいながら、定期的な入居者又は家族へのアンケートを実施しているところであった。回収したとは職員会議等で周知する場面を設けており、至らなかった点や課題として抽出した内容は、改善策まで講じている。このような取組は職員の振り返りともなり、とても有意義な取組といえることができる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスで職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	スタッフからの意見抽出は、毎回ほとんどが入居者へのケアの提供ないように関するものとなっている。運営に関してスタッフのワークライフバランスの観点から、働きやすいシフトへ変更する等柔軟な対応をとったり、ご飯作り専門のスタッフを雇用して、介護員が動きやすい環境を整えている。このようにスタッフに配慮した取組を多く確認することができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者主催の親睦会が年に数回計画され、職員も楽しみに参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた研修に参加したり、ハナレイ全体の勉強会やケアについて話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や研修会に参加し、同業者との交流できる機会を設け、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス計画書を作成する際、本人の要望を聴き、本人の不安を取り除けるように努め、その方にあったサービスを提供している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に十分な説明を行い、信頼関係を築き、計画書を作成し、家族との関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望し、なお、よりよい介護をしたいスタッフの意見も家族に相談し、他のサービス利用も行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬、礼儀を忘れず、一人一人にあった対応を行い、笑顔を絶やさないように心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には、お茶を出し、日常生活の事を家族に知らせたり、施設での出来事を知ってもらうようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人など家族以外の方が来られた時は、「また、お待ちしております」と一緒に見送り、思い出の場所など利用者様から聞いた時は外出レクリエーションで行けないか考えている。	家族の協力も含めて入居者が以前から通っていた美容室に行ったり、元同僚の方に電話を取り次いだりして、「人」や「場所」の関係継続に努めている。また外出レクリエーションに入居者が行きたい場所を組み込んで出かける等、どうやったら想いを叶えることができるか、またどうやったら実行できるかをスタッフで考えているプロセスも確認することができた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様、スタッフが仲に入り、話が出るような場面を作っている。居室に居る時は、できるだけ声掛けを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設で生活されていた頃の思い出話をし、利用者様に生きていた証を思い返している。入院された時は、面会に行き、関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	快適に過ごして頂きたいので、本人に尋ね、家族やスタッフに相談し、希望に沿えるよう努力している。	入居時に家族の思いや本人の意向の聞き取りを行う。好きな物やしたい事を日ごろから聞き取り、外食等実行に移せるようスタッフが協力して支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話から生活歴を聞き出し、施設に入所される前の生活を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りでの情報のやり取り、入居者との会話で心身の状態を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで、よりよい介護の在り方を検討し、介護計画を作成している。	サービス計画書に合わせて目標の実施ができたかチェック式で記入することができるよう工夫している。家族が「リハビリをしたい」等の希望があれば介護計画に活かし作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、誰が見ても分かるように記事を残し、ノートを活用しながら実践や介護計画に見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が生活していく中で、必要な時は他のサービス機関を利用し支援をしている。(美容室や介護用品の店など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常に新鮮な物を近くの店舗を利用し、安全な食生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院と併設しているので、週1回の受診と急変時もすぐに対応できている。	入居時にかかりつけ医の確認をする。協力病院といつでも支援をしてもらう体制を整えており、医療情報を3か月おきに更新して最新の情報共有に努めている。家族対応受診後も聞き取りを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務している為、利用者様の変化や申し送り等で知り得た情報を相談し、その対応について適切な処置を受ける事ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院がある為、安心した治療が出来るように関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望を聴き、それに沿って支援が出来るように取り組んでいる。	家族の希望があれば看取りは行っている。重度化した場合における指針があり医師の説明後同意書を取り交わしている。法人内に看護師がおり連携した支援も行われており、スタッフ全員が安心して支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より緊急時対応マニュアルに目を通し、慌てない様になっている。また急変時にはスタッフ間で連携し、支援出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回の避難訓練も行われており、慌てる事がない様に心掛けている。	通報手順や連絡網等壁に掲示していつでも対応できるようしている。水タンクや自家発電も備えている。地域にも災害時の協力をお願いしている。災害時に対応できる食料などの備蓄も備えている。	火災だけではなく地震や水害等の避難訓練を実施し、あらゆる災害に備えることができるよう期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対話の時は同じ目線、または低くして対応している。人生の大先輩である為、礼儀と感謝を忘れず、人格を尊重した言葉掛けをしている。	入居時に個人情報の利用目的を説明し顔写真等の取り扱いには十分注意し対応している。入居者の名前の呼び方や声掛けには特に注意を払い、尊厳を守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉にできない表情をしたとき、いち早く本人の傍に行き、何を望んでおられるのかを聞き出す支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況や状態に応じて、利用者様に合わせている、。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出レクの時は、一緒に服を選んだりして、おしゃれを楽しんで頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き、なるべくメニューに取り入れ、楽しんでいただけるよう努力している。また、片付けを手伝ってもらっている。	調理専門のスタッフがおり、入居者の食事の形態や好みを把握し献立にも取り入れている。食べたいものを聞き外食することもある。陶器や使いやすい食器も取り入れ目でも楽しめるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変動により、食事量のバランスをとったり、水分も十分に摂っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアを行い、週末には義歯の洗浄をしている。また、歯科往診で指摘されたところを利用者様に声掛けを行い口腔ケアをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いてチェックし、声掛けを行い誘導している。また、本人のペースで排泄できるようポータブルトイレの使用やその時の介助に努めている。	入居者の状態に合わせて布パンツ、紙パンツ等使い分け不快感がなくそれぞれ自立した排泄が行えるようにしている。失禁時はさりげなく誘導し不安がない支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服用や野菜・水分を十分に摂って頂くよう支援し、声掛けも行っている。また、便秘が続いている方には、水分補給や腸を動かして頂く為、エアロバイクや腹部マッサージをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の時間に入れる事は職員の都合で出来ないが、余裕をもって入浴を楽しんでもらう工夫はしている。	週2回の入浴日を設定しているが、いつでも入浴できるように環境を整えている。入浴の介助をする時も同性介助を希望すれば対応できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態を見て、声掛けを行い、ベッドに横になってもらっている。また、昼食後は必ず休んで頂くよう声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を見て理解したり、看護師に尋ねたり、症状の変化を記事に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い(テーブル、食器拭き)、洗濯物を畳んでもらったり、工作などを手伝ってもらっている。その時に無理強いはいしない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外レクリエーションや散歩などに行き、外気に触れるよう考え、家族にも協力を声掛けしている。	季節の花を見に行ったり、定期的に外出ができるよう計画をしている。ユニットごとの外出もあり少人数で行きたい所に行けるよう体制を整えている。近くのコンビニ行ったり家族との外出も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の自己管理が出来る方は、外出した先での買い物等を楽しみにされており、一緒に選ぶよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ自筆の手紙を送ってみると、喜ばれ返事がきて、施設での生活に安心されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ワンフロアで広く、ダイニング・リビングと分かりやすく仕切られているので、混乱される事はなく、ベランダには季節に応じた花や菜園を作り、季節を感じてもらっている。また、掲示板に季節の飾りをしている。	窓の外からは地域が見渡せ、近隣の学校などにメッセージを掲示したり身近に交流を楽しんでいる。食事の際にはテーブルに季節の花が置かれ 座りやすいソファを購入するなど配慮した環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りでおられる時は、好きなコーヒーを出したり、時には話し相手になっている。また、無理な声掛けは行わず、居場所をチェックし見守りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、本人と家族で決められた好みの物を置かれ、自宅で過ごされていた時の思い出の品も飾られている。	カーテンの素材や色などにも気を配り、日差しが強く入る居室には調整をするなど気を配っている。使い慣れた家財を置きその人らしい生活が継続できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器を使用されている方には、安全に安全に動ける様、障害物を取り除き、自立した生活を送ってもらうよう努力している。		